東京	/ \ , \									
科目基礎	計報									
科目番号		0087			科目区分		一般 / 必修			
受業形態		授業			単位の種別と	単位数	履修単位: 1			
開設学科		電子工学	科		対象学年		2			
開設期		前期			週時間数 2					
教科書/教	材	高専デキ専の数学	≒ストシリーズ 基礎数等 対材研究会(編)	学、基礎数学問題	問題集、線形代数、線形代数問題集 森北出版株式会社 上野 健爾(監修) 高					
旦当教員		南出 大村	尌							
	この領域)処理 >ルの基本性 こを目標にす	生質 する.								
レーブリ	リック			T		是低限の	到達しベルの日安			
			思的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安		
下等式の表	長す領域	, 裆			算が出来る.	,基礎的な計算が出来る		不等式が表す領 来ない.		
固数の処理	I		数の処理についての複雑 †算が出来る.	個数の処理についている。		個数の処理についての基礎 的な計算が出来る.		個数の処理にて 的な計算が出来		
ベクトル			フトルを理解し, ベクト D演算法則を用いて複雑 †算が出来る.	解し, ベクト を用いて標準 来る.	ルの演算	を理解し, ベクト 法則を用いて基礎 が出来る.	ベクトルの演算法則を用い て基本的な計算が出来ない			
		頁目との関						•	_	
学習・教育 ABEE (c)	育目標 C1									
教育方法										
既要	- 13	平面 上の			質を理解し、 ご	れらに関	 する基本的な計算能	 力を修得する		
		教科書を	中心に, 平面上の領域,	個数の処理, ^	ベクトルの基本	性質につ	ハて学習し,教科書	や演習書の演習	問題に取り	
受業の進め 	b方・方法 	に行うこ	で学習内容の定着をはたことを期待する。						習を自発的 	
主意点		に行うこ 基礎数学 授業で学 この授業	ごで学習内容の定着をはた とを期待する。 全 I 基礎数学 II の知識を さぶ事項はコツコツと(反 美では,事前に提示される)取り組みを中心としたE	を必要とするので 交後 復習を行うる課題への取り組	で, 良く復習を うこと. 分から flみが重要 <i>と</i> な	しておく ないこと ってくる			習を自発的	
注意点		に行うご 基礎数学 授業で学 この授業 課題への	ことを期待する. ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識を ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識を ☑ II の知識を ☑ II の知識を ☑ II の知识とした ☑ II の知识とした ☑ II の知识とした ☑ II の知识とした ☑ II の知识には ☑ II の知識を ☑ II の知识を ☑ II の知识を ○ II の知的を ○ II の知识を ○ II の知的を ○ II の知的を	を必要とするので 交後 復習を行うる課題への取り組	で, 良く復習を うこと. 分から flみが重要 <i>と</i> な	しておく ないこと ってくる と.	こと. は数学教員まで聞き		習を目発的	
注意点		に行うご 基礎数学 授業で学 この授業 課題への	ことを期待する.	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を	で,良く復習をうこと.分から 目みが重要とな を身につけるこ	さしておく はないこと ってくる こと・ 週ごと	こと. は数学教員まで聞き の到達目標	に行くこと.	習を目発的	
注意点		に行うご 基礎数学 授業で学 ご課題への 週 1週	ごとを期待する. ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識な ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識な ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識な ☑ では , 事前に提示される ○ 取り組みを中心とした目 授業内容 ガイダンス , 平面上の	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の	で,良く復習をうこと.分から 目みが重要とな を身につけるこ	しておく はいこと ってくる こと・ 週ごと	こと. は数学教員まで聞き の到達目標 の表す領域の図示力	に行くこと.	習を目発的	
注意点		に行うご 基礎数学 授業で 授業の 授業 の 授業 の の 回り	ことを期待する. ☑ I , 基礎数学 II の知識を ☑ I , 基礎数学 II の知識を ☑ I , 基礎数学 II の知識を ② II の知識を ② II の知識の知識の知識の知識の知識の 「授業内容」 ガイダンス, 平面上の領域(不等式の	を必要とするので 交復)復習を行きる お課題への取り約 自学自習の習慣を のでは、「一般では、「一般では、「一般では、」 の表す領域(不等式の表す領域)	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	されておく さないこと つてくる と 週ごと 不等式 不等式	こと. は数学教員まで聞き の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か	に行くこと. 「出来る. 「出来る.		
注意点		に行うご 基礎数学 授業で学 ご課題への 週 1週	ごとを期待する. ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識な ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識な ☑ I , 基礎数学Ⅱの知識な ☑ では , 事前に提示される ○ 取り組みを中心とした目 授業内容 ガイダンス , 平面上の	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の表 の表す領域) おける最大値・最	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	しておくとる にしいこく 週ごと 不等式 (領域に 場合の	こと. は数学教員まで聞き の到達目標 の表す領域の図示力	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「他を求めること	ごが出来る.	
注意点		に行うご 基礎数学 授受の 課題への 課題への 3週 4週 4週	とを期待する. I , 基礎数学Ⅱの知識を ぶ事項はコツコツと(反 では, 事前に提示される) 取り組みを中心とした目 授業内容 ガイダンス, 平面上の領域(不等式の 平面上の領域(領域にる) 個数の処理(場合の数)	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の表 の表す領域) おける最大値・最	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	しておくとる にしいてく 週ごと 不等式 (こと: は数学教員まで聞き の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か おける最大値・最小 数を理解し、和・積	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「値を求めること もの法則を用いた	∠が出来る. 亡計算が出来	
注意点	1	に行うご 基礎数学 授業で業 に課題への 週 1週 2週 3週 4週 5週	とを期待する. 「基礎数学 II の知識を 「基礎数学 II の知識を には、事前に提示される の取り組みを中心とした。 授業内容 ガイダンス、平面上の領域(不等式は 平面上の領域(領域にな 個数の処理(場合の数)	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の表 の表す領域) おける最大値・最	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	くとる さいて、 週ご等式 不等域 場合・ 順列を	こと: は数学教員まで聞き の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か おける最大値・最小	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「値を求めること。 「他を求めること。 「の法則を用いた。」 「かた計算が出来る。	ごが出来る. ご計算が出来 3.	
注意点	1	に行うご 基礎数で学 で受 課題への 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	とを期待する. I , 基礎数学Ⅱの知識を ぶ事項はコツコツと(反 では, 事前に提示される) 取り組みを中心とした目 授業内容 ガイダンス, 平面上の領域(不等式の 平面上の領域(領域にる) 個数の処理(場合の数)	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の表 の表す領域) おける最大値・最	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	ていて、 過不不領域合・ 順組る・ 順組る・	こと: の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か おける最大値・最小 数を理解し,和・程 理解し,順列を用し わせを理解し,組み	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「他を求めること。」 「他を求めること。 「の法則を用いた。」 「かた計算が出来る。」 「かた計算が出来る。」	ごが出来る.ご計算が出来ご計算が出来	
注意点	1	に行うご 基礎数学 授業で業 に課題への 週 1週 2週 3週 4週 5週	ととを期待する。 「「基礎数学 II の知識を 「「基礎数学 II の知識を 「本が事項はコツコツと(反 では、事前に提示される の取り組みを中心とした。 授業内容 ガイダンス、平面上の領域(不等式の 平面上の領域(領域に、 個数の処理(場合の数) 個数の処理(順列) 個数の処理(組み合わき	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の表 の表す領域) おける最大値・最	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	ていて、 過不不領域合・ 順組る・ 順組る・	こと. の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か おける最大値・最小 数を理解し, 和・穏 理解し, 順列を用し	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「他を求めること。」 「他を求めること。 「の法則を用いた。」 「かた計算が出来る。」 「かた計算が出来る。」	ごが出来る.ご計算が出来ご計算が出来	
注意点	1	に行うご 基礎数等 授業で等 課題への 3週 3週 4週 5週 6週 7週	とを期待する. 「 I , 基礎数学 II の知識を ぶ事項はコツコツと (反義では, 事前に提示される)取り組みを中心とした 授業内容 ガイダンス, 平面上の領域 (不等式の平面上の領域 (領域にる) 平面上の領域 (領域にる) 個数の処理 (場合の数) 個数の処理 (組み合わる) 個数の処理 (組み合わる) 個数の処理 (2項定理)	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り約 自学自習の習慣を 領域(不等式の表 の表す領域) おける最大値・最	で, 良く復習を うこと. 分から 日みが重要とな を身につけるご 表す領域)	ていて、 過不不領域合・ 順組る・ 順組る・	こと: の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か おける最大値・最小 数を理解し,和・程 理解し,順列を用し わせを理解し,組み	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「他を求めること。」 「他を求めること。 「の法則を用いた。」 「かた計算が出来る。」 「かた計算が出来る。」	ごが出来る.ご計算が出来ご計算が出来	
受業計画	1	に行うご 基礎数学学 記題への 3週 4週 5週 6週 7週 8週	とを期待する. 「「基礎数学 II の知識を 「基礎数学 II の知識を 「本が事項はコツコツと(反 では,事前に提示される の取り組みを中心とした。 「授業内容」がイダンス,平面上の領域(不等式。 平面上の領域(領域に、 個数の処理(場合の数) 個数の処理(順列) 個数の処理(組み合わる。 個数の処理(2項定理) 前期中間試験	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り組 自学自習の習慣を 領域(不等式の記 の表す領域) おける最大値・量	で, 良く復習をうこと. 分から目みが重要とならます(こう) (こう) (こう) (こう) (こう) (こう) (こう) (こう)	していて、 おこく 週ご等式 (こと: の到達目標 の表す領域の図示かの表す領域の図示かおける最大値・最小数を理解し、和・程理解し、順列を用いたで理解し、組みせを理解し、組みせを理解し、組みせを理解し、組みのである。	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「値を求めること。 「の法則を用いた。 「かた計算が出来る。 「かた計算が出来る。 「かた計算が出来る。」 「でありまする。」	が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る.	
受業計画	1	に行うご 基礎数で学 で受 で 課題への 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	とを期待する. 「 I , 基礎数学 II の知識を ぶ事項はコツコツと (反 では , 事前に提示される)取り組みを中心とした 授業内容 ガイダンス , 平面上の領域 (不等式) 平面上の領域 (領域に) 個数の処理 (場合の数) 個数の処理 (順列) 個数の処理 (組み合わる) 個数の処理 (2項定理)前期中間試験 試験返却 , 問題解説	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り組 自学自習の習慣を 領域(不等式の記 の表す領域) おける最大値・量)	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな を身につけるご 表す領域)	くとる - () はつこく - () 週不不領域合・ - () 頭の ののでは、 - () では、 - () では、	こと: は数学教員まで聞き の到達目標 の表す領域の図示か の表す領域の図示か おける最大値・最小 数を理解し、和・程 理解し、順列を用し わせを理解し、組み 里を理解し、2項定理 ルを理解し、ベクト る・ルの基本演算を用し	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「他を求めること。 「の法則を用いた。」 「かける。」 「いた計算が出来る。 「いた計算が出来。」 「いた計算が出来。」 「いた計算が出来。」	が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る.	
受業計画	1	に行うご 基礎数で学 現題への 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	とを期待する. 「「基礎数学IIの知識を記事項はコツコツと(反義では、事前に提示される)取り組みを中心とした。 「授業内容」がイダンス、平面上の領域(不等式の平面上の領域(領域に、個数の処理(場合の数)個数の処理(順列) 個数の処理(組み合わる。例数の処理(2項定理)前期中間試験 「試験返却、問題解説	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り制 自学自習の習慣を 領域(不等式の の表す領域) おける最大値・量) せ) その基本演算法 基本演算と位置	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな を身につけるご 表す領域)	くとる しなつと 週 不 不 領 場る. 順 組る. 項 ク出クト 標 クルスクト 標 クルスクト 標	こと. の到達目標 の表す領域の図示かの表す領域の図示かおける最大値・最小数を理解し、和・程理解し、順列を用いたで理解し、組みせを理解し、組みせを理解し、組みせを理解し、組みでは、2項定理がある。	に行くこと. が出来る. が出来る. 小値を求めること の法則を用いた かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かいた計算が出来る。 かいた計算が出来る。	上が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る. と用いた計算 点の位置べ	
受業計画	1	に行うご 基礎数で学 現 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	とを期待する. 「「基礎数学」の知識を表示事項はコツコツと(反義では、事前に提示される)取り組みを中心とした。 「授業内容がイグンス、平面上の領域(不等式の平面上の領域(領域に、個数の処理(場合の数)を関数の処理(組み合わりを関数の処理(2項定理)前期中間試験。 「対して、イクトル(ベクトルのでは、イクトル(ベクトルのでは、100円ののでは、100円ののでは、100円のでは、100円のでは	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り制 自学自習の習慣を 領域(不等式の の表す領域) おける最大値・量)	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな を身につけるご 表す領域)	しなっと しなっと 週 不 不 領 場る. 順 組る. 項 ク出 クト 標. 面 イン・マート来 トル 平。 の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	こと: の到達目標 の表す領域の図示かの表す領域の図示かおける最大値・最小数を理解し、和・程理解し、順列を用いたで理解し、組みせを理解し、2項定理ルを理解し、べクトス・ルの基本演算を用いる。	に行くこと. 「出来る. 「出来る. 「出来る. 「他を求めること。 「の法則を用いた。」 「かける。」 「はいたままする。 「いたままする。」 「はいたままする。 「はいたままする。。」 「はいたままする。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	上が出来る. 計算が出来 5. 計算が出来 が出来る. と用いた計算 点の位置べ める事が出来	
受業計画	1stQ	に行うご 基礎数等 授でで業 に 記題への 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週	とを期待する。 「基礎数学 II の知識を には、事項はコツコツと(反義では、事前に提示される) 取り組みを中心とした。 授業内容 ガイダンス、平面上の領域(不等式の 平面上の領域(領域に、 個数の処理(場合の数) 個数の処理(順列) 個数の処理(組み合わり 個数の処理(2項定理) 前期中間試験 試験返却、問題解説 ベクトル(ベクトルと・ ベクトル(ベクトルのうな ベクトル(座標と距離)	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り制 高は(不等式の配 の表す領域) おける最大値・量) せ) せ)	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな を身につけるご 表す領域)	Colora	の到達目標の表す領域の図示かの表す領域の図示かおける最大値・最小数を理解し、和・積理解し、側列を用したを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、ベクトルの基本る事が出来る。	に行くこと. が出来る. が出来る. が出来る. が値を求めること の法則を用いた かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来、 が、 は、	上が出来る. 計算が出来 5. 計算が出来 が出来る. 上計算が出来 が出来る. かる事が出来	
受業計画	1stQ	に行うご 基礎数で学 で実 の 調 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	とを期待する. 「「基礎数学」の知識を表示事項はコッコッと(反義では、事前に提示されるの取り組みを中心とした。 「授業内容」がイダンス、平面上の領域(不等式は平面上の領域(領域には一個数の処理(順列)を開放の処理(組み合わるの処理(2項定理)前期中間試験。 「対して、バクトル(ベクトルとなった。」で、イクトル(ベクトル(ベクトルので、イクトル(ベクトルので、イクトル(平面ベクトル(平面ベクトル(平面ベクトル(平面ベクトル)を表示。	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り制 領域(不等式の配 の表す領域) おける最大値・量 との基本演算法則 基本演算と位置/ ルの成分表示)	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな 上身につけるこ 表す領域) 最小値)	しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る ユ	の到達目標の表す領域の図示力の表す領域の図示力がある。 理解し、1項定理解し、2項定理ルを理解し、2項定理解し、2項定理解し、2項定理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項に対し、ベクトルのある。から表示を対したルの成分表示を対している。	に行くこと. が出来る. が出来る. が出来る. が値を求めること の法則を用いた かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出き 表示を用いた	
E意点 受 業 計画	1stQ	に行うご 基礎数で学 で学 で 課題 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	とを期待する. 「「基礎数学」の知識を 「「基礎数学」の知識を には、事項はコッコッと(反義では、事前に提示される。 の取り組みを中心とした」 授業内容 ガイダンス、平面上の領域(不等式は 平面上の領域(領域になる。 個数の処理(場合の数) 個数の処理(順列) 個数の処理(組み合わる。 個数の処理(2項定理) 前期中間試験 試験返却,問題解説 ベクトル(ベクトルとなる。 ベクトル(ベクトルのなる。 ベクトル(空間ベクト) ベクトル(空間ベクト)	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り制 領域(不等式の配 の表す領域) おける最大値・量 との基本演算法則 基本演算と位置/ ルの成分表示)	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな 上身につけるこ 表す領域) 最小値)	しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る ユ	の到達目標の表す領域の図示力の表す領域の図示力がよる最好を理解し、1年間の表す領域の図示力がある。 では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年	に行くこと. が出来る. が出来る. が出来る. が値を求めること の法則を用いた かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出き 表示を用いた	
主意点 受業計画	1stQ 2ndQ	に行うご 基礎数で学業 で受いで開発への 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	とを期待する. 「「基礎数学」の知識を 「「基礎数学」の知識を には、事項はコツコツと(反 では、事前にに提示される。 の取り組みを中心とした。 「要素内容」がイダンス、平面上の領域(領域に、 一個数の処理(場合の数) 個数の処理(順列) 個数の処理(組み合わる。 個数の処理(組み合わる。 個数の処理(2項定理) 前期中間試験 試験返却、問題解説 ベクトル(ベクトルと・ ベクトル(ベクトルの。 ベクトル(空間ベクト) ベクトル(ベクトルの。 ベクトル(ベクトルの。 ベクトル(ベクトルの。 ベクトル(ベクトルの。	を必要とするので 交復)復習を行う る課題への取り組 前域(不等式の配 の表す領域) おける最大値・量) せ) せ) せ) しの成分表示) ルの成分表示) 大きさと平行条件	で、良く復習を うこと・分から 目みが重要とな 上身につけるこ 表す領域) 最小値)	しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る ユ	の到達目標の表す領域の図示力の表す領域の図示力がよる最好を理解し、1年間の表す領域の図示力がある。 では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年では、1年	に行くこと. が出来る. が出来る. が出来る. が値を求めること の法則を用いた かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に計算が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来、 が、に対象が出来が ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出き 表示を用いた	
主意点 受業計画	1stQ 2ndQ	に行うご 基礎数で学業 で受いで開発への 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週	とを期待する. 「「基礎数学」の知識を表示した。 「基」、基礎数学」の知識を表示した。 「基準ないから、表現の知識では、事項には、事がでした。 「技業内容」が、一方の領域(不等ないでは、では、ののののでは、では、のののでは、では、のでは、では、では、のでは、では、のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	を必要とするので 交復)後習を行う る課題への取り制 領域(不等式の記 の表す領域) おける最大値・量) せ) せ) との基本演算法則 基本演算と位置/ ルの成分表示) ルの成分表示) 大きさと平行条件 標	で、良く復習を うこと、金のからな を うこと、重要とな を を を を は は は は は は は は は は は り に つ け る こ を と り に つ け る こ し い し い り に り に り し い り と り に り と り と り と り と り と り と り と り と	しなつと しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る 2 で 等 等 域 合 . 列 み . 項 ク出 クト 標 . 面算 間算 ク計 で た . 一 で た . 一 で で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で . 一 で	の到達目標の表す領域の図示かの表す領域域の値・最小数を理解し、順列を用いた理解し、組みで理解し、組みで理解し、2項定理を理解し、2項定理ルを理解し、2項定理解と2項定理解と2可定性を2可定理解と2可定理解と2可定性を2可定性を2可定理を2可定理を2可定理を2可定理を2可定性を2可定性を2可定性を2可定理を2可定理を2可定性を2可定性を2可定性を2可定理を2可定定理を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性	に行くこと. が出来る. が出来る. が値を求めること の法則を用いた かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 や合わせを用いた計算が 型を用いた計算が 型を用いた計算が ないた計算が出来。 ないた計算が はいたが はいたが のは、これが のは、これが	上が出来る. 計算が出来 る. 計算が出来 が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出る 表示を用いた	
主意点受業計画	1stQ 2ndQ	に行うご 基礎業で第一の 3週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週 16週 15週	とを期待する. 「「上を期待する。」 「「上を期待する。」 「「上を開待する。」 「「上を開待する」」の知識を表現の知識では、事項はは、事項には、事のでした。 「「大きでは、事のでは、では、事のでは、では、事のでは、では、事のでは、では、事のでは、では、事のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	を必要とするのでできる。 を必要を行うる。 ででででできる。 でででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 を必要を行うる。 でできる。 でできる。 でできる。 を必要をできる。 ででできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	で、良く復習を うこと・重要を らこと・重要を を対して を対して 表す領域) 最小値) 戦力・値)	しなつと しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る 2 で 等 等 域 合 . 列 み . 項 ク出 クト 標 . 面算 間算 ク計 域 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	の到達目標の表す領域の図示力の表す領域の図示力おける最大値・最小数を理解し、和・程理解し、組み理解し、組み理解し、組みを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルをでは、ベクトス・ルのようである。ルカトルる・カールの成分表示をよった。か出来る・か出来る・かが出来る・かが出来る・かが出来る・かが出来る・かが出来る・かが出来る・などの領域を不等にある。	に行くこと. ぶ出来る. が出来る. が値を求めること。 の法則を用いた計算が出来る。 かた計算が出来なった計算が出来なった計算が出来が、 理を用いた計算が出来が、 点間の距離を求さる。 連解し、成分表を理解し、対象を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、対象を理解と、対象を理解し、対象を、対象を理解し、対象を理解し、対象を理解しな、対象を理解しな、対象を理解し、対象を理解しな、対象を、対象を、対象を理解し、対象を理解し、対象を理解しを、対	が出来る. 計算が出来る. 計算が出来る. が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出き 表示を用いた で条件を用いた	
注意点 受業計画 が期	1stQ 2ndQ	に行うご 基礎業で第一の 3週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 15週 16週 16週 15週	とを期待する. 「「上を期待する。」 「「上を期待する。」 「「上を期待する。」 「「上を関係数学」「の知識を表現の知識では、事項を中心とした」 「大きなのでは、なった」を表現の領域(不可した」を表現のの処理(関列)をの処理(順列)をの処理(順列)をの処理(組み合わるの処理(2項定理)が期中間試験では、ベクトル(ベクトル(ベクトル(ベクトル(ベクトル(ベクトル)で、クトル(で空間ベクトル(ベクトル(で空間ベクトル)で、クトル(空間ベクトル)で、クトル(空間ベクトル)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カトル(空間ベクト)が、カール(できるできる。 「一般では、カート)が、カールのでは、カート)が、カールのでは、カールののでは、カールののでは、カールのでは、カールののでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは、カールのでは	を必要とするのでできる。 を必要を行うる。 ででででできる。 でででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 を必要を行うる。 でできる。 でできる。 でできる。 を必要をできる。 ででできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 でできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	で、良く復習を うこと・重要を らこと・重要を を対して を対して 表す領域) 最小値) 戦力・値)	しなつと しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る 2 で 等 等 域 合 . 列 み . 項 ク出 クト 標 . 面算 間算 ク計 域 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	の到達目標の表す領域の図示かの表す領域域の値・最小数を理解し、順列を用いた理解し、組みで理解し、組みで理解し、2項定理を理解し、2項定理ルを理解し、2項定理解と2項定理解と2可定性を2可定理解と2可定理解と2可定性を2可定性を2可定理を2可定理を2可定理を2可定理を2可定性を2可定性を2可定性を2可定理を2可定理を2可定性を2可定性を2可定性を2可定理を2可定定理を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性を2可定性	に行くこと. ぶ出来る. が出来る. が値を求めること。 の法則を用いた計算が出来る。 かた計算が出来なった計算が出来なった計算が出来が、 理を用いた計算が出来が、 点間の距離を求さる。 連解し、成分表を理解し、対象を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、成分表を理解し、対象を理解と、対象を理解し、対象を、対象を理解し、対象を理解し、対象を理解しな、対象を理解しな、対象を理解し、対象を理解しな、対象を、対象を、対象を理解し、対象を理解し、対象を理解しを、対	が出来る. 計算が出来る. 計算が出来る. が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出まる。 表示を用いた で条件を用いた	
主意点受業計画	1stQ 2ndQ	に行うで学 を受けるの を受けるの はで学えの に存数でで学えの に存数でで学えの に存むでで学えの に存むでで学えの に存むでで学えの に存むでで学えの に存むでで学えの に存むできまするの に存むできまするの に存むできまするの に存むできまするの に存むできまするの に存むできまするの に存むできまするの に存むできまするの になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできまするできます。 になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできまするできます。 になるできまするできまするできまするできます。 になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできまするできまするできまするできます。 になるできまするできまするできます。 になるできまするできまするできまするできまするできまするできまするできまするできます	とを期待する. 「「「「「」」」」」」 「「」」」」」 「「」」」」 「「」」」」 「「」」」」 「「」」 「「」」」 「「」 「「」」 「「」 「「」」 「「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	を必要とするのでででは、	で、こと、 良く、 食の ます領域) 最小値) 関) でクトル) 本等式の表 である。 である。	しなつと しなつと 週 不 不 領 場る 順 組る 2 でいて、 週 不 不 領 場る 順 組る 2 でが ベク 座る 平計 空計 べた 域 な は な な で で で で で で で で で で で で で で で で	こと、は数学教員まで聞きの到達目標の表す領域の図示力の表す領域の図示力おける最大値・最小数を理解し、和・程理解し、順列を用いた理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルを理解し、2項定理ルをでは、ベクトス・ルのようをである。ルルのようである。からいる。からいる。からいる。からいる。からいる。からいる。からいる。からい	に行くこと. ぶ出来る. ぶ出来る. 小値を求めることであることである。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来る。 かた計算が出来、 ないた計算が出来、 ないたがにより、成分表 を理解し、成分表 を理解し、成分表 を理解し、成分表 を理解し、成分表 を理解し、成分表 を理解し、成分表 を記述していた。	が出来る. 計算が出来る. 計算が出来る. が出来る. を用いた計算 点の位置べ める事が出ま 表示を用いた で条件を用いた	

			平面および空間ベクトルの成分表示ができ、成分表示を利用して 簡単な計算ができる。								
評価割合											
	試験	発表	長	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計			
総合評価割合	80	0		0	0	0	20	100			
基礎的能力	80	0		0	0	0	20	100			
専門的能力	0	0		0	0	0	0	0			
分野横断的能力	0	0		0	0	0	0	0			